編集後記

▼今号も、多くの方々のご協力をいただき無事に発刊できましたこと心より厚く厚く感謝申し上げます。

▼師父の一周忌のご報告を申し上げるのと同時に、十二月十二日に三回忌の法要を迎えることとなりました。月日の流れの早さをしみじみ感じております。

▼初夏には、大乗寺山主、東隆眞老師にお忙しい中、数時間に亘って「成寿」の取材にお応えいただきました。東老師と師父のご縁は、尊く、篤く、深いものであったことを再認識致しました。また私の永平寺修行時代、同日安居で修行を共にした石黒玄章師が只今大乗寺の知客という役で、東老師の下でさらに修行しているのです。この因縁の深さを強く感じました。

▼特集ドイツ普門寺は、平成十六年に私も修行させていただいた懐かしい場所です。慣れない土地で、中川老師をはじめメンバーの方々に大変お世話になりました。普門寺の皆さまに再びお会いでき本当に嬉しく思いました。特に普門寺晋山式ではステイしながら、造園のマイスターを目指していた下川さんが、なんと出家され弁事というお役をしているのに驚きました。来春は帰省し日本の専門僧堂で修行されるそうです。改めて中川ご老師の教化と感化力に敬服いたしました。

▼今年は師父が待ち望んでいた「港南ひばりの森」も開園し、「横浜やすらぎの郷」も新区画開放し、更に、釈迦殿の入口が自動ドアになり、山内も少しずつ時代に対応し皆様がお参りしやすいお寺づくりをめざして、今後精一杯精進してまいります。何卒変わらぬ御法愛、御教導賜りますこと心よりお願い申し上げます。

▼今号は多くの方々とのご縁のありがたさ、人と人のつながりの大切さを強く感じることのできた「37号」となりました。

▼明年一月九日㈫は新年祈祷会です。皆様おそろいでお参りください。向寒の砌、どうぞお体に充分に御留意いただき佳いお年をお迎えください。

（博志）

成寿　第三十七巻
平成十八年十二月一日発行
発行所　成寿山善光寺
横浜市港南区日野中央一丁目十二番九号
電話　〇四五（八四五）一三七一
FAX〇四五（八四六）二〇〇〇
印刷所　神奈川新聞社出版部

横浜善光寺